

ウォークマン^{ウォークマン}の **福祉** ^{三浦市の}

ウォークマンでは平屋が多いので長い階段やエレベーターのバリアフリーは見つけることが出来ませんでした。しかし三浦と比較するとウォークマンの方が動物が多いです。なので動物注意の表識が沢山ありました。道路も日本よりはフリーな作りにな、こいるのでそれらの表識ともわけられるようにしなければいけません。その為に1つ1つのサインがユニバーサルサインでとても見やすかったです。

私のホストファミリーが通っている学校には車イスの生徒が通っていました。三浦にある南下浦中学校にも車イスで通っている生徒が居ましたが最低でも階段はあかさなければいけないのでそこは大変だと感じました。

その車イスの生徒は、ミュージカルというものに出演している様でした。ミュージカルとは授業の中で2人の舞台を演じることです。それを車イスでやるのは台本を多少は変えなければいけませんが、他の人より時間がかかりますが、とても高い完成度でとてもうれしくなりました。

私が初めて車イスの生徒を見かけた時、その方は図書館に居ました。日本では図書館では静かにしないといけないけれども、アメリカではボードゲームやパズルなどがあつて、かなりお喋りがしやすい環境でした。

車イスの方を見るとテーブルの高さが合わないという大きな変化がないかな...と心配していたら、友達はしゃがんで話をしてくれました。

他の教室ではほとんどのテーブルが低く、車イスの生徒さんに使いやすくなつてきました。

ホストファミリーが外へ買い物に連れて行ってくれたときに、駐車場に車イスマークがあり、そこはいつも空いていました。



学校の先生に車イスでのバリアフリーについて聞いてみると、不さげ段差のところにはちゃんとスロープがついていました。今、その学校に、盲目の生徒や先生は居ませんが、いつでも対応できるように用意してある様でした。

他にも盲杖でも使った方が、やさしい様に手すりが付いていました。

リンスとシャンプーに付いていて、この分かれやすい凸凹はなごったの点字がそんなにXジョーじではないのかと思、たゞ、メルボルンにある大学には、点字が沢山あり、私が見た点字は日本と使った方が読み方が同じだったので読むことが出来ました。

ウォーキングは三浦と違、2信号が無く、目が見えない方は恐いんじゃないかなと思いましたが、メインストリートには、音の出る信号があり、これなら安心だと思いました。

空港で盲目の方を見かけたとき、周りの方が、とよけていて、点字ブロー、7がわかりやすくなったと思えます。

きっと日本という大きなくくりでは、オーストラリアの方が身体障がい者のための配慮はあるのかなと思いました。

しかし、心の病気や目には見えない事について
は同じもしくは、日本の方が発達している
かなと感じました。

それは、私はあまりお肉が好きでは
なく普段の食事でさえも食べたくはないの
ですがその事をホストファミリーに伝える
とすぐに「ベジタリアンですか？」と
聞かれました。他のウエスタンスタイルに住
む方にも同じ様な事を聞かれました。
しかし私の住む場所ではすぐに
食べるのがたが単にキライなんじゃないかな
と思、こも分えます。

これはどちらの方が良いとは決められ
ませんが「ベジタリアン」のうちの
持りを理解して使っているのは、

とても大切な事だと思、います。

他にも福祉については小学校から教
育がある様で、それは三浦市と同じで

色々な人々の事を理解して行くのは、

大人になって急に出来るものではないので、小さい内から学んでいくと、差が広がらないかなと考えました。

心理カウンセラーの他に毎週1日1人の医者が来ており、先生も使用できるのかととてもいいシステムだと思いました。三浦にはないものとしては朝に時間バラバラですが授業のプログラムとしてコミュニケーションをとる時間があることですが、本を読む時間をとる三浦のやり方もとてもいいと思いました。

なので本を読み終えた後にはあそびや好きなところ、感想や今後の展開の予想を他の人に伝えれば、それは本をよみまわすにもなるし、コミュニケーションを取ることのできることでつぎを合わせてみるのもおもしろいかと考えました。

今後の課題としては、私も含め、1人1人に
関くと、福祉は大切。とても必要な考
えだと答えてくれます。

しかし、団体で見ると知識や理解が足り
ないのが正直な現状だと思います。

ですのでこの

姉妹都市交流を通い新たに楽しく福祉
を学べる機会を増えたいと思いました。